スポットライト
～地域で頑張る人たち～
No.8

地域の町内会で支える 子どもたちの緑化活動

横尾岳緑（よこおだけ）の少年団

横尾岳緑の少年団は、大姶良小学校区内の、主に3年生以上の小学生からなる少年団で、現在44人が在籍しています。

「緑の少年団」とは、次代を担う子どもたちが、ふるさとや人を愛する心豊かな人間に育つことを目的に、緑と親しみ守り育てる活動を行う少年団のこと。県下55団体のうち、市内で唯一活動しているのが、この横尾岳緑の少年団です。

その歴史は古く、昭和52年に結団された横尾岳緑の少年団は、今年で41年目を迎えました。これまで、横尾岳の清掃や浜田海岸での松の植樹、街頭募金などの奉仕活動のほか、シイタケ駒うち体験や宿泊キャンプなどの野外学習活動を実施してきました。

このような取り組みが評価され、過去には「鹿児島県みどりの感謝祭」での知事表彰など、数多くの賞を受賞しています。

取材したこの日は、横尾岳あじさいロードの清掃作業。猛暑の中、子どもたちは黙々と作業に汗を流し、草やぶに覆われていた記念碑周辺は、見違えるほど綺麗になりました。

育成会長の福永浩文（ふくながひろふみ）さんは、こう熱く語ります。「横尾岳緑の少年団は、周辺地域の町内会や小学校の教職員からなる育成会が協力し支えてきたことで、40年以上も活動することができた。これからも、少しずつ取り組みを変えながら、子どもたちの成長を見守っていきたい」

７月に行われた横尾岳あじさいロードの清掃作業。市内を見渡せる絶景のなか、子どもたちは手際良く草を集めていた。

清掃活動後は、恒例の記念撮影。清掃活動には大姶良小学校区の町内会長や教職員、保護者が応援に駆けつける。

「子どもたちには、緑を通じて、いろいろな体験をしてもらいたい」と語る福永さん

編集後記

戦争中の話は今では信じられないことばかりですが、72年前までは確かに起きていたこと。時代は変わっても当時の証言は今もなお重く尊いものです。証言を後世に伝えていく使命を感じます。（前田）

ドイツ語と英語を学んだはずなのに、今ではすっかり忘却のかなた。そもそも日本語はおろか鹿児島語もあやしい私。せめて挨拶と「眠い、暑い、おなかがすいた」ぐらいは、複数言語で言えるようになりたいです。（原田）

新しく広報担当になりました。市内外の人に「鹿屋は面白そうなまち」と思ってもらえるよう、「熱い」人や取り組みなど発信していきたいです。皆さんのまわりの小ネタなど、何でもお寄せください。（田嶋）

✂キリトリ線

お便り＆メッセージ

ご協力ありがとうございました。

ご応募の際にご記入いただきました個人情報は、抽選・賞品引換券の発送・アンケート統計以外の目的で使用することはございません。